

履修モジュール【文化と表象】

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
38	人類の知的遺産を辿る	より根源的に、より原理的に物事を考えたい人向けのモジュールです。基本的には古典古代のギリシアから始まる西洋の知的伝統を時系列に辿ってゆくこととなりますが、重要なことは人物の列伝ではなく、どのような問題が提起され、その問題にどのようなアプローチで対峙したのか、という問題史的な観点です。	ジェンダー論 法学 政治学 宗教学 生命論A・B 哲学 科学技術史	経済思想史 社会思想史 メディア論 記号論 倫理学	大黒 岳彦
39	情報社会の現在を思想的に把握する	二〇一一年にはっきりとした形を取った情報社会はインターネットという社会インフラを基礎に、新たな社会構造を築き上げつつあります。これからの四半世紀の内にはスマホはオウゴンとなり、それに替わって、VRやウェアラブル、ロボットがメディアの主導的地位を占めていることでしょう。情報社会の現在と未来を社会科学的に把握します。	社会学A・B メディア・リテラシー 歴史学 哲学 西洋史概論 情報社会と経済 組織論	政治とメディア マスコミュニケーション論A・B 情報政策論A・B メディアの歴史 メディア論 記号論 映像表現論	大黒 岳彦
40	「メディアとは何か」という問題に取り組む	メディア論というディシプリンを立ち上げたのは、カナダの文明批評家M・マクルーハンでした。ですが、彼が生きた時代の最新メディアはTVでした。ですが現在、メディアの最先端は、SNSやYouTube、そして更にはSmart Glassやドローンなどのロボットに移りつつあります。こうした観点から、そもそも「メディア」とは何なのかという問題を原理的に考えます。	環境と社会 生命論A・B コミュニティ論 メディア・リテラシー 情報倫理 言語学 哲学 情報科学 脳科学	コミュニケーション思想史 身体表現論 身体と意識 人間性心理学 科学技術と人間 メディア論 記号論	大黒 岳彦
41	日本の国際社会における将来を隣国との関係から考える	韓国・中国と日本の関係は良好とはいえない。日本と韓国・中国との歴史的関係を知ることもなく、感情的に他者への批判や非難を行っているかも知れまい。19世紀、帝国日本が植民地を獲得していった、という知識はあると思う。大事なことは、他民族を支配すること、他者の文化を破壊する、ということの意味を、被害と加害という問題から“知る”ことにある。アジアにおける日本の未来はそこから始まる。	歴史学 日本史概論 東洋史概論	異文化コミュニケーション史 社会文化史 国際関係論Ⅰ・Ⅱ 近・現代史Ⅰ・Ⅱ 地域文化論（中国・朝鮮）	須田 努
42	なぜ沖縄に米軍基地は集中しているのか。沖縄問題の歴史的文脈から考察する	普天間基地移転問題に対して、本土の人ひとは無関心である。沖縄でば、今も米兵・米軍関係者による暴力事件があつたをたない。日本全体の0.6%の面積しかない沖縄に、在日米軍基地の約75%が集中している。なぜ、このような理不尽な状況が続いているのであろうか。	歴史学 日本史概論 地誌学 東洋史概論 地理学	異文化コミュニケーション史 社会文化史A・B	須田 努
43	現代政治の無責任のあり方の根源を考える	コロナ禍に対する日本政府の対応を見ても、なぜ日本の為政者はこれほど無責任なのか、との疑問が起こる。政治思想史の専門家丸山眞男は、近代天皇制と大日本帝国憲法のあり方から、この問題に迫り「無責任の体系」との概念を構築した。しかし、どうもその根は深そうである。江戸時代に形成された社会文化に根源があるかもしれない。	歴史学 日本史概論 社会学A・B 東洋史概論 西洋史概論	現代政治学Ⅰ・Ⅱ 社会文化史 近・現代史Ⅰ・Ⅱ	須田 努
44	メディア批評でポピュラーカルチャーを考える	映画、TV、ビデオなどポピュラーカルチャーを差別・偏見・権威に関する「政治的闘争の場」(site of political struggle)と考えると見たことはありますか？ 哲学、文学、社会学、言語学の理論を批判的方法論として当てはめることで、私たちが生きる社会がメディアに構築されたものに気づくと同時に、どのように超越的表象(representation)を分析できるのかを考えてみましょう。	ジェンダー論 メディア・リテラシー パブリック・スピーキング メディア批評	社会文化史 比較文学・比較文化 記号論 映像表現論 ジェンダーと社会 地域文化論（英語圏）	鈴木 健
45	世界文学を通してグローバルな視点と思考法を身につける	実用的な知識やスキルだけに満足できない人は、ぜひ文学や芸術を通して豊かな感性と思考法を身につけてください。学生時代に文学や芸術に親しむ鑑賞する習慣を身につけておくこと、一生の宝になります。ただし、ある意味で文学はすべての学問の紐帯ともいえるので、周辺の諸科学をも興味を持って学ぶことが重要です。現在、急速にグローバル化して行く情勢の中で、様々な言語で書かれた文学を統合する、脱中心的で移動を主題とする「世界文学」が注目を集めています。	外国文学 日本文学 比較文化 言語学 哲学 生命論 心理学	比較文学・比較文化 地域文化論 日本文化論 映像文化論 音楽表現論	関口 裕昭
46	「芸術（アート）」と「コミュニケーション」が交差する世界を探究しよう	「芸術表現」とは、言葉による言語的メディアだけでなく、色・形・音・身体・…などの非言語的メディアを、単一に、あるいは複合的に構成して、内なるメッセージを外に押し出す（express）コミュニケーション行為である。芸術表現によるコミュニケーションの特徴を、自らの体験的学び（ワークショップ）を通して探究しよう。	美学・芸術学 演劇学 身体コミュニケーションA・B 音楽論 メディア・アートA・B ウェルネス・スポーツA・B（日本舞踊）	音楽表現論 身体表現論 映像表現論 造形表現論 メディア教育論 日本文化論A・B デジタル・アートA・B 非言語コミュニケーション アート・マネジメント	波照間 永子
47	記者・ジャーナリストを目指す	国内外のマスコミやネットメディアなどの記者や、フリーランスなど独立したジャーナリストを目指す。ジャーナリズムやメディアを学ぶことと、記者・ジャーナリストを目指すことは全く別問題である。前者はジャーナリズムやマスコミを批判的に考察するもので、実践的とはいえない。記者・ジャーナリストに求められる実践的な知識は高校卒業レベルの一般教養に加え、大学で学ぶ六法、簿記会計、英語、統計、倫理、国際政治、経営が主となる。また、記者・ジャーナリストに必須の行動力と突破力、批判的思考力は、大学の体育会活動や学外でのボランティア活動、海外でのインターンシップなどの活動で育まれる場合が多いため、これらをお勧めする。	クリエイティブ・コミュニケーション（ジャーナリズム） キャリア・デザイン 商・経営学部第2級程度の実務科目、会計学や監査論の初歩的な内容	メディア教育論 スポーツ・ジャーナリズム論 法学部の憲法、刑法、民法、刑事訴訟法、民事訴訟法の概論的内容の授業	小田 光康
48	デジタルメディアのファッションとジェンダー表象	デジタルメディアが発達した現代社会のメディア環境で、記号の表象としての文化産物としてのファッション（服飾流行）は、今まで以上に国境、ジェンダー、階級、企業といった様々なボーダーを超越しながら重層的に展開し、形成、伝達、再編され続けている。トランスボーダーに形成、伝達、再編され続ける表象文化としてのファッションとそれらを装置としてメディアで形成される規範としてのジェンダー表象について考察する。	社会学A・B ジェンダー論 メディア批評 言語学 哲学 地域文化論（基礎） クリエイティブ・コミュニケーション（フランスとファッション）	メディア論 記号論 広告論 地域文化論（フランス） 超域文化論 情報コミュニケーション学（高馬） ジェンダーと社会・Ⅱ 言語態研究 言語使用とディスコース コミュニケーション思想史 質的調査分析法 都市情報論	高馬 京子

履修モジュール【文化と表象】

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
49	宗教から世界を読み解く	昨今の国際情勢を考える際、宗教は重要な切り口の一つである。「イスラーム国（IS）」など宗教を掲げる過激派の活動、欧州に流入するイスラーム系移民、ローマ教皇の積極的な外遊、世界各地でみられる宗派対立など、宗教が関係する出来事が山積している。宗教から世界を読み解くには、宗教に関する知見に加え、国際関係論や比較政治学などに関する学識も不可欠である。つまり、これは「ガクの情コミ」の特徴である学際的な研究を極めることでもある。	異文化理解 宗教学 地域文化論（基礎） 政治学 新興国事情 西洋史概論 東洋史概論	現代政治学ⅠⅡ 地域文化論 多文化と相互理解ⅠⅡ 国際関係論ⅠⅡ 異文化間コミュニケーション	横田 貴之
50	学校教育における人びとの実践を読み解く	公教育はさまざまな制度によって規定される一方で、学校での具体的な実践は人びとが共有する文化による影響を受けている。ただし、制度や文化は人びとの行為を制限するかもしれないが、常に特定の行動をとらせるわけではない。では、教師や子どもはどのようにして具体的な実践を織りなしているのか。制度や文化を資源として人びとがやりとりを構成する、その仕方を解き明かす。	組織論 憲法A・B 社会学A・B	組織と情報 人権と政策 情報社会と教育A・B コミュニケーション思想史 組織コミュニケーションA・B	鈴木 雅博
51	社会の反映としての文化・芸術	文学・演劇・映画・音楽などを始めとする文化・芸術には、それが作られた時代や地域の社会のありさまや問題が反映されている。そうした観点から、さまざまな時代の文化・芸術を分析する能力を身につけることは、私たちが生きる現代社会について考える上でも有効な視点をもたらすことだろう。	外国文学 日本文学 歴史学 地域文化論（基礎） メディア・リテラシー	映像表現論 音楽表現論 日本文化論A・B 地域文化論 人文地理学	日置 貴之
52	日本文化の伝統と現代	日本には多くの伝統文化が残っていると同時に、現代の新しい文化も日々生み出されている。それらはどのような性質を持っているのであろうか。さまざまな場面で、安易な「日本独自論」が語られがちなが、歴史的知識の修得や他地域の文化との比較を通して日本文化を相対化し、冷静に分析する能力を身につけたい。	日本文学 日本史概論 異文化理解 比較文化（基礎）A・B	日本文化論 地域文化論 比較文学・比較文化AⅠ・AⅡ 比較文学・比較文化BⅠ・BⅡ 近・現代史Ⅰ・Ⅱ	日置 貴之
53	言語の働きを解明する	文字や音声によって意思や思想、感情等を他者に伝達するという意味で、言語は人間が社会生活を営む上で欠かすことのできない要素である。では、そもそも、言語とはどのような種類があり、それらの言語はどのように生まれ、変化してきたのだろうか。また、学問の場において、言語はどのように研究されてきたのだろうか。普段あまり意識することのない言語の働きを掘り下げるべく、言語学や記号論、音声学等の視座から言語の奥行きを理解する。	言語学 日本語表現Ⅰ・Ⅱ	記号論 自然言語の生成モデル 言語使用とディスコース 英語音声学	内藤 まりこ
54	言語の運用・表現能力を育む	人間は言語を用いて他者との意思伝達を図る。一言で言語といっても、日本語や英語のような国語の位相から、書き言葉・話し言葉の位相や、私的言語・公的言語の位相に至るまで、言語にはさまざまな位相が存在する。そうした人間の豊かな言語的営みを把握し、自らも言語を円滑に運用できるようにするためには、言語を運用する個人や集団を取り巻く環境や、そうした環境が生じた歴史的、社会的背景への洞察力を養う必要がある。そこで、言語がどのように運用され、表現されてきたのかを具体的な場面や状況に即して学習する。	日本語表現Ⅰ・Ⅱ 異文化コミュニケーション史 パブリック・スピーキング 異文化理解	言語態研究 社会文化史 言語表現論 自然言語の生成モデル 言語使用とディスコース 法コミュニケーション	内藤 まりこ
55	情コミ的人文学の愉しみ	学問は「人文学」「社会科学」「自然科学」の領域に区分されてきた。しかし、現代社会は、この既存の枠組みでは捉えきれない現象が起こっている。それを解決するため、情報コミュニケーション学部は学問横断的な学問の場を提供している。「人文学」に属する文学等の学問は人間の思想や観念の変遷を古代から遡って捉えてきたが、この分野を重点的に学んでみると、このような広い視野から他の学問領域を理解することが可能となり、現代の諸現象を捉え返すことも可能となるだろう。	哲学 宗教学 日本史概論 歴史学 異文化コミュニケーション史 日本文学 東洋史概論西洋史概論	情報社会論A・B 社会文化史A・B 近・現代史Ⅰ・Ⅱ 家族社会学 情報社会と教育A・B 情報社会と出版 都市情報論	内藤 まりこ
56	多言語世界の奥行きを理解する	現代社会において、日本にいながらにして日本語以外の言語に触れる機会が多い。また、自ら海外に赴き、さまざまな言語を見聞きすることもあるだろう。しかしながら、そうした言語によって紡ぎ上げられた文化をそう簡単には理解できない。そこで、各言語や文化に関して培われてきた研究を手掛かりに、自分でもさまざまな言語による文化の奥行きを考察してみよう。いくつもの言語や文化を比較し、多言語世界への自分なりの視座を築き上げるのが、情コミ流である。	比較文化（基礎）A・B 日本文学 英米文学 外国文学 異文化コミュニケーション史 東洋史概論 西洋史概論	比較文学・比較文化AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ 地域文化論（英語圏）A・B 地域文化論A・B（フランス） 多文化と相互理解Ⅰ・Ⅱ 日本文化論A・B	内藤 まりこ
57	言語から文化や社会を理解する	私達の生活には、文学や映画、演劇、漫画等、さまざまな言語表現が溢れており、それらは趣味や娯楽の対象として広く享受されている。しかし、このような日常の鑑賞の場においては、言語表現が私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っているということはあまり意識されることがない。そこで、こうした言語表現の深層の働きに迫るべく、言語表現を読み解くための専門的な技術を習得し、日常感覚の数倍によつては導き出すことのできない作品の解釈や捉え方を学習する。	日本語表現Ⅰ・Ⅱ 美学・芸術学 演劇学 メディア・アート	言語態研究 メディア教育論 言語表現論 情報社会と芸術	内藤 まりこ
58	効果的な外国語学習方法と教授法を理解する	外国語を学ぶことは何年も努力が必要である。新しい語彙や文法形式を習得するため自分に適切なインプットの選び方を学んだり、効果的なアウトプットの練習を理解したりする必要がある。また、自分の学習動機を持続ける方法を考えるのも重要である。第二言語習得研究の結果に基づいて自分にとって適切な学習方法を作成する。	English Skills AⅠ・Ⅱ Critical Writing A・B	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 英語音声学	ドウ ティモシー
59	アカデミック英語を学ぶ	留学先など英語で授業を受ける際勉強に必要な英語は英会話で使われる英語とは非常に異なり、特別なスキルとストラテジーを学び、実践する必要がある。アカデミック英語は複雑なものもあるが、シンプルで明確な表現も非常に必要である。授業ではスキルやストラテジーを学ぶとともに、頻繁に使われているアカデミック語彙と慣用表現の意味だけでなく、使い方も理解する。	English Skills AⅠ・Ⅱ Critical Writing A・B	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 英語の文化と歴史 英語音声学	ドウ ティモシー

履修モジュール【文化と表象】

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
60	「ことば」の仕組みを研究する	我々は日頃自分の母語を上手く用いて他者とコミュニケーションをとっており、自分の母語に関しては何でも知っているように感じるが、実は他の人から聞かれると答えられない疑問が多々ある。例えば「なぜ『すげー』『さみー（寒い）』とは言えて『すぎー』『きめー』とは言えないのか」「なぜ『学生が酒を3人飲んだ』とは言えないのに『酒を学生が3本飲んだ』とは言えるのか」などが挙げられる。このモジュールでは上記のような疑問に対して、言語学・哲学・脳科学などの分野を軸にアプローチする。	言語学 論理リテラシー 脳科学 哲学	自然言語の生成モデル 言語使用とディスコース 記号論 英語の文化と歴史 英語音声学	坂本 祐太
61	「ことば」が社会でどのように機能しているのかを研究する	我々の身の回りは「ことば」で溢れている。例えばお菓子の商品名、広告のキャッチフレーズなど、そのジャンルは多岐に渡るが、注意深く考えると様々な疑問に直面する。例えば「チョコレートの商品名で、マロリーヌとチョコリッツでは抱く商品イメージが変わるのはなぜか」、「『美味しい飲み物です』という直接的なキャッチコピーより『飲めばわかる』のようなキャッチコピーのほうが印象的なのはなぜか」などである。このモジュールでは上記のような疑問に対して、言語学・（社会）心理学・経営学などの分野を軸にアプローチする。	言語学 統計学 経営学 社会心理学A・B 心理学A・B 社会調査法A・B	言語使用とディスコース 記号論 イノベーションの経済学 広告論 不確実性下の人間行動 消費行動の心理学	坂本 祐太
62	「ことば」を介したコミュニケーションの不思議を研究する	我々は日頃「ことば」を上手く用いて他者とコミュニケーションをとっているが、その中にはよく考えてみると不思議な現象も多い。例えば「今からカラオケ行く？」という「はい」「いいえ」の回答を求める疑問文に対して、「いいえ、行きません」と直接的に断るよりも「すぐに行きたいんですが、明日1限で朝早くて」と間接的に断ることの方が多いだろう。このモジュールでは「なぜ我々のコミュニケーションのシステムがこのように成り立っているのか」という問いに対し、言語学・異文化コミュニケーションなどの分野を軸にアプローチする。	言語学 異文化理解 社会心理学A・B 社会調査法A・B	言語使用とディスコース 異文化間コミュニケーション 非言語コミュニケーション	坂本 祐太